まちぢから松林タイムス

令和元年十二月一日発行
茅ヶ崎松林地区まちぢから協議会広報部会

室田小学校体育館

令和元年10月12日台風19号襲来

その時松林地区はどう動いたか

令和元年台風第19号

十月十二日、静岡県の伊豆半島に上陸した台風十九号は記録的な豪雨となり、東日本に大きな被害が出た。各地で洪水や土砂崩れ、河川の決壊が起き、インフラや交通にも大きな影響が及んだ。

この台風で茅ヶ崎市は、十二日午前6時に市内の一部約四万四千七百世帯、約十万六千八百人を対象に避難勧告を出し、市内三十七の小学校や中学校で避難所を開設した。

台風19号に関するデータ（茅ヶ崎消防本部データより）

総雨量一五五・〇㎜
一時間最大雨量一九・〇㎜
瞬間最大風速
三七・八メートル毎秒
河川水位
千ノ川（梅田橋）
18時20分　一・七一ｍ
避難判断水位　二・二ｍ
氾濫危険水位　二・五ｍ
小出川（二ツ橋）
14時30分　二・五二ｍ
避難判断水位　二・九ｍ
氾濫危険水位　三・〇ｍ
小出川（新鶴嶺橋）
18時40分　二・五九ｍ
避難判断水位　二・五ｍ
氾濫危険水位　二・七ｍ
相模川（神川橋）
24時00分　八・三ｍ
避難判断水位　七・八ｍ
氾濫危険水位　八・七ｍ
避難状況
避難所開設数　三十七ヶ所
避難者数　八千三百五十八人
被害情報（市が把握したもの）
人的被害　三件（軽傷）
物的被害　三十一件
倒木　二十二件
道路冠水　三件
通行止め　五件
文化財破損　一件
停電被害　三千四百件
赤羽根　一千件
高田　八百件
室田　三百件など

激甚災害に指定
政府は10月29日の閣議で台風19号を激甚災害に指定した。激甚災害に指定されると、地方自治体が管理の道路の復旧を国が代行するなど、公共土木施設や農林水産関連などの被害に対して一定の復興支援を行う。

我が自治会は

高田自治会　会長　森　俊彦

午前6時半、対策本部立ち上げ。千の川周辺地区に対し消防団に依頼して消防車のスピーカーで避難勧告を案内。川の水位や道路の冠水情報は高田自主防災会のグループラインで共有。土砂災害警戒区域（高田緑地周辺）の該当世帯へ避難を勧める文書を配布。高田5丁目避難勧告地区の要支援者に、個別に呼びかけたが家族同居との理由で避難しないことを確認。避難所（室田小）応援として、12日は4名、13日の片付けに7名高田自治会役員が従事。台風のような風水害への対応について様々な課題・教訓が課せられたのかなと実感した。

ニュータウン茅ヶ崎自治会　会長　井野孔美

午前7時半、自治会館に災害対策本部を設置し、台風19号の対応を開始した。自治会理事と民生委員も召集。緊急連絡網により会員へ避難勧奨（数名が室田小学校に避難した）。重度の要支援者については民生委員と会長が避難を説得（車も手配）したが、自宅に留まった。危険箇所を確認後14時半各自帰宅。13日（日）午前9時より再開。今回の反省と教訓を話し合い11時半、本部解散。大きな反省点としては緊急連絡網が完全に機能しなかった事と避難所の情報を取らなかった事。避難所には防災リーダー等が張り付いて、（防災無線機にて）逐一様子を自治会本部に知らせる必要があると痛感した。（その次の避難者への伝達方法も課題）

室田自治会　会長　内田　紘

台風に対して当自治会の危機は、千の川氾濫による住宅浸水である。平成十五年五月の大雨で床上浸水し、被害が出た。台風19号では、朝6時に室田二、三丁目に避難勧告が発令された。この時千の川の水位は五十センチ程度増、同12時に自主防災体制を設置、トランシーバーによる情報交換と情報共有を行った。13日の市の避難勧告解除に伴い、6時半、室田防災の体制を解除した。避難所関連としては、12日13時頃の松林中学避難所の状況が入った。『体育館の避難者はまばらで、敷物はなく壁側に立ったままであった』と。一方、14時頃、室田小学校の状況では『すでに２００人位が避難。教室、多目的室、音楽室は避難者で一杯になり、体育館に受入れている。』19時過ぎ、『室田小、柳島小、萩園中、アルバックが受け入れを一時中止し、鶴嶺高校を新たな避難所として開設した』との情報があった。

上赤羽根自治会　会長　細田　勲

大半の世帯は自宅待機を選択したが、土砂災害警戒区域内の三十世帯に自治会が戸別訪問し避難を勧めた結果三世帯が赤羽根中学校へ避難した。

中赤羽根自治会　会長　滝本　誠

午前中より、中赤消防分団長と連絡。分団小屋に詰めるので対応を確認。15時に室田小学校に避難者の確認のため現地へ。到着時から2時間後には、体育館も教室も満杯で受け入れを松林小学校に委託する状態だった。約３８０名の避難者に

避難所受付の様子

は19時頃夕食の提供（備蓄非常食）が行われた。避難所の様子は、苦痛以外ないだろうと感じた。地域の防災訓練は、避難所運営にもっと注力すべきだと感じた。当自治会員は自宅待機が殆どだったが、日頃より自助・共助を意識して、災害に対処する重要性を痛感した。

下赤羽根自治会
会長　城田　誠

南を高田の台地、北に甘沼の山に挟まれた地形のため台風上陸の前日に新湘南バイパス側道のグレーチングの落ち葉の清掃をし、清掃事務所にて引き取ってもらった。赤羽根地区に出された避難指示については土砂災害の危険区域周辺への周知で良かったのではないか。消防署が消防車で巡回周知したため、避難の必要がない人までが避難し、避難所が混雑してしまった。又、避難者で非常食を持参する人があまり見受けられなかった。

菱沼自治会
会長　西山　三男

菱沼自治会の区域は、中央を流れる千の川が平成の初めにボックスカルバートによる暗渠化された結果、大雨による水害も殆んど生じていなかった。台風19号による避難所が開設され巡回したところ、松林小35名・松林中150名程度で当自治会員の避難者は見受けられなかった。

オクトス湘南茅ヶ崎自治会
会長　村松　章生

今回は台風15号襲来時に被害のあった停電、エレベーターの停止や断水も無く、オクトス住民間の不安は比較的少ないように思われた。台風19号に対する事前の準備と通過後の確認及びそれに対する処理を次の通り行った。①準備：敷地内片付けの確認及び自主防災組織と民生児童委員との打ち合わせ。②台風襲来時：住民からの通報により、飛ばされた駐輪場の屋根の片付けを強風の中で実行。③通過後、被害の確認と関係部署への連絡。」また、翌日13日は敷地内巡回と被害確認を行った。

地域の皆様から

防災放送について思う
上赤羽根　石川　光重

早い段階で赤羽根、高田、室田に避難勧告（警戒レベル4、全員避難）が発令された赤羽根だけで約二千八百世帯六千人余り、何処に避難しろと言うのか？、避難勧告と避難指示の違いは？近所同士で相談し結局大半の世帯は自宅待機を選択した。

千曲川の堤防決壊で大変な被害を受けた長野市でも繰り返し避難指示を呼びかけたが十分ではなかった。単に”避難してください”と”何処で越水（決壊）が予想されます”では大きく避難行動が異なる。赤羽根には土砂災害、浸水災害が想定される区域が一部にある。自己責任というには区域を特定して予想される被害状況を可能な限り詳細にアナウンスすることが行政側にも求められる。

今回は幸い大事に至らず事なきを得たが、これを貴重な経験として今後に生かしたい。

「避難者」を経験して
下赤羽根　川口　富士子

19号は未曾有の規模とあって私の防災意識はより高まっていた。6時の避難勧告レベル4の発令から11時頃、室小へ避難。既に高齢者を中心に数十名が避難していた。午後は避難者数も倍増し受付も混雑。聞けば初めての人が多かった。皆家から非常用の食料や飲料を準備し、静かに過ごす時間が続く。空調や湯沸かしポットを完備頂いた清潔な空間に皆安堵していた。赤ちゃん連れ避難者はプライベートが確保できるよう配慮されたが、避難者が段々と押寄せればその余裕はなく市職員の苦労も垣間見えた。積まれた段ボールの中には災害用の毛布があり、その数にも驚いた。そして時間の経過と共に人間は自分のテリトリーを快適にすべく確保を広げる。自治会長さん達の取計らいなどで諍いは無かったようだが、今後は区分がもっと明確化されていればと思った。ペット連れは玄関エリアでの避難。季節によっては厳しいだろう。居場所の確保はどこも課題とされるが今回を機に防災意識は高まっている。様々な課題が改善され生かされることを切に願う。

避難所の様子と感じたこと
高田自治会防災リーダー
上村純夫

室田小学校は最終的に377名の避難者が入所し、市役所の地域配備職員4名では対応が追い付かない状態になり、避難者名簿作成業務等の一部を自治会応援部隊が担当した。夕方以降は来訪した避難者に、比較的余裕のある、隣の松林小学校に避難してもらうようお願いする状態であった。避難所のメイン会場は体育館で本校舎3階の多目的ホールも一般避難者に開放。車いす等の避難者は1階の教室。またペット連れの避難者は西側昇降口に割り当てられた。又、避難所本部は1階地域ルームでここから市役所本部との無線通信が行われた。19時頃風雨が強まり体育館東側扉より浸水。ブルーシートを探したが見当たらず1階2年生の廊下の雑巾を校長先生の許可を得て借用。浸水部分に詰めて対策。夜、落ち着いたので自治会応援部隊は撤収した。避難所の必携品『水、食料、アイマスク、耳栓、携帯ラジオ、うちわ、防寒具』等を持参していない方が多かった。

【編集後記】

今回は松林地区大運動会が中止となったため台風19号の特集号となった。地元の災害対応の様子を伝えたかったためである。近年は台風や集中豪雨、地震などの自然災害による被害が甚大になっている。台風19号では東日本を中心に浸水・洪水災害を引き起こした。各種の警戒情報や避難情報が発令され、刻々と変化する状況に避難すべきかと悩んだ人も多かったはずである。台風は接近してからでは間に合わない対策もある。我が茅ヶ崎市は甚大な被害はなかったものの、避難所に駆込んだ人は近年ではまれな多数だった。日頃から防災意識を持って生活することや、避難行動の段取りを身に着けておきたいものである。

ウリ坊　記